

The Effects of Social Networks on Wellbeing in China

李, 双龍

<https://doi.org/10.15017/1500471>

出版情報：九州大学, 2014, 博士（比較社会文化）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏 名	李 双龍 (Li Shuanglong)		
論 文 名	The Effects of Social Networks on Wellbeing in China (中国において社会ネットワークが幸福に及ぼす影響)		
論文調査委員	主 査	九州大学	教 授 三隅 一百
	副 査	九州大学	准教授 Hall Andrew
	副 査	九州大学	准教授 長谷 千代子
	副 査	東京大学	教 授 石田 浩
	副 査	東北大学	教 授 佐藤 嘉倫

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、現代中国の階層的な変動と現況を、人びとの物質的および精神的充足度からみた不平等に着目して、とりわけ社会ネットワークの観点から読み解いている。中国では開放化以来の急速な経済発展の中で、人びとの生活水準は向上しながらもさまざまな格差を伴う階層化が進行している。そうした中、guanxi 文化に根差しつつ、社会ネットワークは階層化に組み込まれているのか、それとも、対抗的なセーフティネット的仕組みを形作っているのか。この学術的にも実践的にも興味深い課題を、本論文は多角的かつ実証的に解き明かそうとしている。

本論文の第一の特徴は、既存の希少な大規模社会調査データの使用権を複数獲得し、各種の統計手法を駆使した二次データ分析を行っていることである。調査のオリジナリティはないものの、これら複数のデータを統一的視点から分析した研究はなく、中国における社会調査データの二次活用の進展におおいに貢献している。第二の特徴は、「弱い紐帯の強さ」理論と guanxi 文化を関係づけた統一的な理論的視点をおいていることである。そして、guanxi は手段的な側面と当為的な側面をもつことから、階層化を物質的側面と精神的側面の両面から捉えている。そうして、地位達成の分析枠組みによる階層研究の中で、資源配分としての階層化を人びとの主観的充足度との関係で相対化しながら論じる、独特の分析スタイルを構築している。以上の枠組みと分析による主要な発見は以下である。

第一に、職業獲得において仲介者を利用することの収入への影響を、1956～2009 年の時代的变化として分析している。それにより、職業獲得における仲介者利用は社会的弱者、また国営・公営セクターで多いこと、利用率はむしろ増加していること、近年の市場化進展後に労働市場に参入した人びとについては仲介者利用（とくに強い紐帯）が収入に負効果をもつこと、等を発見している。これらは、社会ネットワークがセーフティネット機能を担いつつ、その役割を増していることを示唆する。

第二に、出身階層と客観的充足（世帯収入）および主観的充足（幸福感）との関係における社会ネットワークの媒介的役割を、構造方程式モデルにより体系的に分析し、職業獲得における強い紐帯の利用は主観的充足に直接効果をもつだけでなく、仲介者の地位の高さを媒介した間接効果ももつことを発見している。弱い紐帯にはこうした媒介効果はないので、高地位の知人とつながりは強い紐帯であるときのみ地位認識に影響する。これは guanxi に関係する階層システムの特異な側面として留意される。

その他にも、社会ネットワークが労働市場に組み入れられている状況を分析し、とくに強い紐帯の特徴的な役割を析出している。例えば、対象職業が専門や熟練の場合には弱い紐帯が使われやす

く、選抜の競争度が高い場合には強い紐帯が使われやすいこと、また、仲介者を使ったときには筆記試験が免除されやすいが、弱い紐帯の場合は面接が課せられやすいこと等である。さらに、紐帯がもつ情報量と、長期的にみた職業の主観的不充足（職業獲得時点と現時点とを比べた満足減）の関係を分析し、弱い紐帯は職業選択肢を増やす効果をもつが、長期的には主観的不充足を強めることを明らかにしている。こうした弱い紐帯の負の側面を指摘したのは本研究が初めてである。

総じて本論文は、急速な経済自由化とそれにともなう階層化が進む現代中国において、「制度の穴」を埋める形で社会ネットワークが階層システムに組み込まれている姿を描き出している。概していえば、そこにおいて社会ネットワークは弱い紐帯としての階層化促進機能と、強い紐帯としてのセーフティネット機能の両面をもつ。ただし、**guanxi** 文化の反映として、強い紐帯は単に精神的充足面で機能するだけでなく、雇用関係を基礎づけ、地位認識に影響する形で、階層システムの中で独特かつ顕在的な役割をもっている。公開審査では、論文全体としてこれらの知見を統合的に議論するための論理構成、基礎的な変数操作化や因果関係の考え方、階層状況の変化を **guanxi** 文化に関係づけて説明する方法等について、さらに検討すべき課題があることが指摘された。けれどもそれらは、先々の調査の工夫や研究展開の中で発展的に対処できる課題であることも確認された。

以上のように本論文は、社会調査データの二次分析の工夫により、階層と社会ネットワークの關係に焦点を当てた研究に新たな分析視点や経験的発見を提示しており、欧米の階層研究を相対化する比較社会文化研究としての学術的価値をもつ。また、現代中国の不平等問題についても実践的示唆を提示している。以上の理由により、博士（比較社会文化）の学位に値すると判断する。